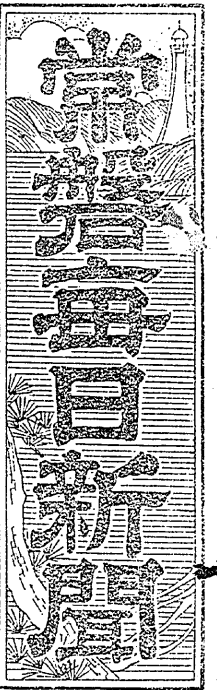


刊夕日一十月一



定価 毎紙一円 一月九円 三月二十五円 半年四十八円 一年九十円  
廣告料 五部 第一号 行金五拾銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
〒980 仙台市青葉区大森三丁目三番地  
電話 六三三〇  
印刷所 常磐毎日印刷株式会社  
〒980 仙台市青葉区大森三丁目三番地

### 佛縁に浸れ

眞 繼 雲 山

人間の心はもとく水の如く、白紙の如きものであるから相手の次第にて善くもなり、悪しくもなる、その所を昔小學校で「水は方圓の器に従ひ、人は善悪の友による」と教へられた「朱に交れば赤くなる」とも教へられた。

佛道修行とは木上の理窟や學問ではなく、絶對の光明、絶對の智慧そのものである、佛を師表と仰いでその感化を受け、やがて佛に成ることである、阿彌陀佛の眞似をして、やがて彌陀同格の覺位に昇ることに多ならぬ。

その修道の工夫にはいろいろある、最も誂らへ向きな注文としては、若し現代に、佛そのものである釋尊

が生きてゐられるならば、宜しくそのあとからクツ着いて歩くことが最上の近道であるが、三千年後の今日では及びもつかぬ。

### 初 鷄

渡邊 何鳴

初鷄に白みそめたる山河かな  
裏白や漸く深き餅のひび  
雪かゝる店先に齒染選り合へり  
負籠にあふる齒染を商へり  
初風呂や雪の傘二三本

高風を忍び、乃至は高徳の師の講説を聴聞して一脈の清風に浴するがよい。  
第六には、入りては佛書に親しみ、佛具を手にし、鐘を叩き、香を燻じ、數珠を手にし、經を書寫し佛説語録を習字するがよい。

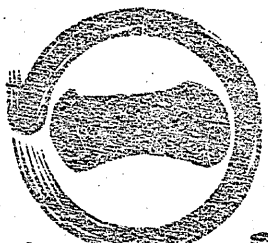
### 時計眼鏡

トキワヤ 平一電三三九

永生を求め、悟りの彼岸に到らうとするものは斯やうにして日夕つとめて佛像に親近せねばならぬ、蓮如上人は「常に籠の様な心を佛の水に浸らせよ」と垂訓された、如何に罪深く迷ひ多き凡夫であらうとも、常に佛の光明といふ日向に出で、迷ひのかたまりである凡身の澁を向けてゐるならば澁柿はいつともなしに甘柿となり、疑心は信心と變るであらう。  
第一より第六にいたる前假の工夫はその一を採ることに既によし、若しすべてを併せ採り給は、久しからずして如來地に到らんこと露疑ひあるべからず。

### ■ 産名城磐 ■

らか鹽と節鯉



# 魚問屋

店理代平命生本日大最優最

榮盛賀志

番三一電 目丁四平

### 耳鼻咽喉科専門

氣管食道科  
平南町（電話一七〇番）  
大和田醫院

### 本會對世の問評



少女甲「あなた此頃大變お婆やお顔がお美しくなりましたわね。」  
同乙「さう見えて？ 女學講義録を、とふだんのちよつとした注意で美しくなる美容法がいろいろ見られますわ。」



少女甲「あなた此頃を自分でお経ひになつたのオヤお婆様、仕立てゝゐらつしやるわねお婆様に裁つて頂いたんですか。」  
少女乙「いえ女學講義録を見て自分で裁りましたの。これを見ると何でも裁ち方から縫うまでよく分りますわ。それに手縫いもありますの。」

## ▲自宅勉強で高女卒業以上の力がく通信教授

# 實際生活 家庭女學講習録

### 婦人の最大急務

女子教育の盛んな今日實力養成は、  
▲女子教育の盛んな今日實力養成は、  
教授科目は、和洋裁縫、編物、袋物、絞、刺繍、造作等を始め和洋料理法、育児法、家庭經濟のとり方、家事整理法、作法、禮式、衛生、美容法、活花から作、習字、精神修養、社會常識などすべて女子に必要なものばかりで一流の専門大家十數名の先生方が親切に分かり易く講義されたもの、尋常小學校を卒業した方なら誰れにも讀めます、上の學校へ行かれぬのを残念に思ふ處女、實力をつけて向上を望む婦人は今すぐ「見たとハガキで講求次第説明見本無代送呈す。」  
東京市神田區三崎町（日本大學正門前）  
大日本家庭女學會  
振替東京二八六四〇番 電話九段一五六七番



## 玉屋洋品店

平町町通電話六五六番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器  
關内藥局  
電話四〇番

月曜言論

保險料率の値下

平町には名物の空ッ風が吹き荒むと共に、非常に火災の多い時代があつた、夫れ丈に町民の火に對する恐怖は轉じて警火思想の現れとなり、消防諸機關は、正に縣下第一を以つて誇るに足る、完備の境に達した、一方屋上制限も縣下に範たりと唱へらるゝ迄に、その成績を挙げ、最近三ヶ年の夜警費を推算して三千六百餘圓の多きに達するを見ても町民が火災防止の上に注がるゝ熱意の、如何に絶大なものがあるかを知るに足ると信ずるものである、其結果は、最近の五六ヶ年は少く、最近の五六ヶ年は僅か一回宛のみ然も小範圍の火災であつた。然るに保險料は以前九厘であつたものが三年前一躍一分一厘に値上げされた儘依然として値下げされない、これは寧ろ奇現象と云ふべきではないか。町理事者も此處に見る處あつて強硬な値下交渉を保險協會に向つて開始したといふ、是れは當然の處置である、吾人は當事者に對して一段の努力を切望する。平町に於ける保險契約高は各社が秘密を厳守して居る關係から、或ひは一千万或ひは五六百萬と稱せられ、適確なる數字は判明しないが、假りに七百萬の契約ありとせば、年々五六萬圓の保險料は流出するのである、然も此金たるや、

の不幸事以外には厘毛も地方には還元されないのである。安心料としては餘りに巨額に失する負擔と云はなければならぬ。今や水道擴張工事の竣工は目捷の間に迫つて居る、これが完成の曉には、水壓は倍加し、消火鉢、消火井は増加する斯くて消防力は一層の強味を加へるであらう、此際保險協會たるもの、宜しくブツタクリ主義を廢して土地の状況に則した料率に改訂されん事を進言してやまない。

心遣りなく 雑煮餅を鱈腹 (上)

平町出身 佐藤武君の通信

多難でした昭和六年も終り輝やかしい昭和七年の新春を戦地にて無事迎へる事が出来ました、去る十二月廿二日軍令にて第二大隊は〇〇攻撃の目的を持ち深夜白雪をふんで駐劄隊を出動なし午前一時半奉天發の車中にて 戦友達と此度最後の戦争だ一人になる迄で戦ふなどと話し合つて居る内に汽車は進行廿三日午前四時海城に到着後、海城〇〇野砲隊長の指揮下に入り、錦州攻撃に先立ち〇〇野砲隊と〇〇歩兵隊が苦戦中の(牛莊)に向ふ海城より歩兵の本領

急行軍を以つて午前八時出動致しました、海城より六里の行軍(急)にても一寸まいりました、而し目前に敵有りの氣合を持つて戦友同士で助け合ひ午後一時四十分には牛莊(ニイチヤン)城一五〇〇米手前迄前進なし、ましたが此迄に昨日討伐に向ひ〇〇野砲大隊長の指揮をなす〇〇隊に出合ふ、野砲隊長の言葉によれば敵を城内迄撃退したが三〇〇〇名の多數の爲め一ヶ中隊の歩兵隊を以つて突撃すも只だ兵士を殺すばかりだから

今此處にて 貴隊の到着を待つて居つたと云ふ事でした、其れではと云ふので我が部隊は野砲六門をもつて一齊射撃を開始廿八九發も射つた事でせう、野砲の援護射撃と共に 歩兵隊の 裝甲自動車先頭に北門より突入し各所から頑強に抵抗する賊團と激烈なる市街戦を演じ三十分後には城内を我が大隊により占領しました城内外各所を掠奪又は放火し暴逆の限りをつくした匪兵は西門より城外に壊走したがいきのつく間も無き様に 第五中隊 を先兵中隊として進撃しました、敵は乗馬の爲め其の功無き爲め、退却なき賊團を全滅な

勿來町長 紛糾か?

石城郡勿來町長 平四郎氏

は來月十三日任期満了となるので早くもこれが後任に就いて策動する者現れてゐるが町民の輿論としては大體改選を望んで居るも町議の一部は再選を計畫してゐるので後任推薦會は相當紛糾を豫想されてゐる

麥踏を怠るな

昨今の天氣は十五年來の珍しい暖かさであるがこれがため麥作は時期外れの成育振りを來たしてゐるのでこの成育は今後降雪があれば莖が折れ或ひは腐敗病などを起し却て成育を遅らしめる事になるので農事試験分場では頗る憂慮しこれが対策として一般農家に對して麥踏勵行方を通知した

馬匹の流産は 飼育の不注意

石城郡下で年々流産する馬は約二百頭あるが是れが原因は放牧から舍飼させる時の運動不足、食物の急變、或ひは妊娠馬を急激に使役する等飼育管理の不注意に基くものと判明徹底的防止策を講ずると

平町職業紹介所が 取扱つた學力調査

大半は小學校卒業者 無學者も可成ある

平町職業紹介所で昨年度に取扱つた人員の學力調査に依ると 高等専門學校出が四名、同程度の半途退學が三名、中學校及び女學校出が十七名、同半途退學廿九名、中等程度が四十二名、同半途退學が七名、高等小學校出が四百廿六名、同半途退學五十四名、尋常

ナマコの 出荷組合

石城郡 七濱か

は四季とれるナマコは乾物と七百斤八十圓から九十圓内の相場輸出してゐる

が近く出荷組合を設け大量出荷をすることゝなつた

七福會素謡會

平町 七福會素謡會は十日午後一時から七十七銀行支店長宅に開催番組左記の如くであつた (鶴龜)山田、菅谷椿(辯

復又米價上昇

農家の鼻息荒し 平穀物検査所の米價調査によると 元日以来五等一畝で十四圓七十錢の高値を示して居た米價が本日より更に十五圓に一躍上昇したが農家では一畝十七圓位迄に上ると豫期して居る由

平町人事

△南町 當時樺太豊原郡字 豊原町東二條二丁目高橋 平治郎四男弘

難波醫院

平町新川町 【釜屋新宅向】 電話五〇二番

毛糸 尺が長くて手ざわりよく 洗濯しても色さめず何回 編直しても大丈夫此糸こそ國産日本一 田町 三井物産店

# 年賀状は終へたが

## 今度は選挙文書戦

### 来月もまた忙しい平局

#### 諸般の準備対策を立つ

平郵便局では五日で年賀郵便の方は切りあげ六日より平常勤務に復したが何しろ舊臘二十日より五日まで二週間中引受、配達、繰越合せて八十萬通からの賀状を取扱つた後だけに大風

一週間の観があり局員はいづれも疲弊してゐるが漸く年賀の繁忙期が過ぎたと思ふと来月は議會解散は必然的に行はれる豫測なので今度は總選挙の文書戦で目のまわるやうな多忙期の訪れるため同局では年賀郵便の方の残務整理を終へると選挙文書戦の対策を立て何時

選挙が はちまつても狼狽せぬやうにすることになつた戸石局長は

漸く年賀郵便は無事終了したが今度は選挙郵便だ解散は間違ひなからうか対策も考へて置かねばならぬでも賀状と違つて配達区域が限られて居るから年賀の時ほどは多忙にはならぬと語つてゐる

一割を増した  
舊臘中の犯罪  
平警察署の十二月中に於ける

る犯罪統計によると正月を前に控えての事として流石に多く検査数二百四十六件此の人員百二十四名の多数に及び窃盗の百四十六件(二十二名)を筆頭に次は詐欺三十二件(二十二名)横領二十一件(八名)それに悪性麻痺の職業紹介違反が一九件(廿一名)あり文書偽造は一八件(十二名)賭博五件(二十五名)等で前月に比較して一割方の増加であつたと

#### 船長の誤り

水主丸難破原因  
既報豊岡村鹽屋崎燈臺附近で水主丸の難破した原因は船長が舵をあやまつた結果で損害約三千圓の由

自動車協會役員改選  
鳥島自動車協會平支部では本日午後三時より住吉屋本店に新年宴會を開き役員改選を行つた

#### 丸龜吳服店主が

##### 債務を履行せす

##### 詐欺で告訴さる

##### 縣下屈指の富豪だけに 成行果して如何に?

平町大町多額納税者中野勇吉氏の長男で同町三丁目丸龜吳服店々主中野康平(三十八)は一昨年平信用組合から實父並に叔父某の保證で三回に亘り六千圓の融通を受けたがその後支拂ひ期日が経過しても一向債務を履行せず再三交渉してもはかどらないので組合では保證人に對し支拂ひを求めたところ實父勇吉氏並に叔父某等は意外に

ので組合では九日夜關係者と組合事務所懇談を遂げたが組合としては證券をまけるといふ譯には行かないのでそのまゝ物わかれとなつたが中野氏は縣下における屈指の富豪なので成行さつては注目されてゐる

#### 齊藤警部補榮轉

平警察署司法係齊藤警部補は十日付を以つて縣警察部高等課勤務となつたので十三日午前八時五十分平驛發

#### 兎を射たんとし 誤つて人を射つ

##### 顔面に命中し血塗れの重傷

石城郡田人村大字旅人炭燒業稻村竹治(三十八)は八日の午前十一時ころ東白川郡鮫川村炭燒業大森善之助(三十九)を勢子として鮫川村山林地で兎を密獵中竹治は兎をうたんとして過つて善之助の顔面に命中血に塗れて打倒れたので驚き同村駐在所に急報醫師を招き應急手当の結果は一命を取止め得るが中々の重態である

#### 平均相場

##### 平町の

昨年七月以來十二月迄の平均に於ける各種物價平均相場は左の如くである

品目	量目	値段
白米	二〇〇	四〇〇
二	二〇〇	四〇〇
三	二〇〇	四〇〇
大麥	一〇〇	四〇〇
小麥	七、八五	

明日の天気  
今晩は北風  
晴明日は南東の風  
午前中晴午後には曇り

今晚の部  
後六、〇〇(子供の時間)  
兒童劇「曉の鐘聲」B.K.コドモサークル  
後八、〇〇 河東節 山彦  
後八、二五 長唄「鞍馬」松

薪 十貫 一、四一  
炭 同 一、七四  
美濃紙一束 八一  
半紙 同 三六

稅務署長着任  
平稅務署長に榮轉した唯野喜八氏は九日午後三時十一分常磐線平驛着で着任し署員一同に挨拶をなした

平職業紹介所報告  
求人部  
車力 卅才以下 給六七  
十錢(田町某運送店)  
藥局見習 十五六才 給面談 希望者には將來自動車運轉手としての道を教ふ(十五丁目某醫院)

求職部  
酒屋働 尋卒(伊達郡某)  
女藥局見習 十九才高卒(湯本町某)

平町鍛冶町吉田屋吳服店西隣り

歯科  
口腔外科 齒槽膿漏科  
治療科 補綴科 齒列矯正科

中村齒科醫院  
東京齒科醫學士 中村文一

前九、一〇料理献立「青豆雞丁」四ッ倉龍男  
前一〇、三〇家庭講座「日常生活と生理作用」二醫學博士加藤元一  
後〇、〇五管絃樂 東京ラジオオーケストラ  
後六、〇〇(子供の時間)童話「お猿の新戦術」久留島武彦  
後七、三〇「春のスポーツを語る」座談會  
後八、五〇放送映畫劇「金色夜叉」若田祐吉外

美味しく安く  
鳥小焼  
香六八二話電

上田科醫院  
平町 南町  
電話二一九番

鳥商鳥菊





【載轉禁】

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

怪しの手紙 (11)

『居残つてくれと泣きかかれ  
たつて、破産した家にべん  
／＼と落ちてゐられあし  
ないぢやないの、でもね、  
只ぢや御免蒙るわ、出すな  
ら、出すやうに親類中で相  
當の扶助料をこしらへて一  
生涯困らないやうに生活の  
保證をしてくれないことに  
は挺でも動くもんかね』  
ひどく昂奮した様子が聲  
の牙え目の輝きとで知れた

『さあ、其處です、貴女の  
方でさう頑張つてごらんな  
すつた處で先がいゝんな貴  
女の弱味や欠点を拾ひあげ  
て、それを離籍の理由にす  
るのは最う目に見えてあま  
す、その理由が正しいもの  
であつたら貴女の主張は徹  
りません、結局裁判沙汰に  
でもなつて御覽じろ、血で  
血を洗ふやうなことになつ  
て、貴女のお顔が汚れるぢ  
やありませんか』

『まけ嫌ひな郁子は  
『裁判に持出すつて……持  
出せるものなら持出すがい  
ゝさ、私だつて假初にも男  
爵の家に生れた女だもの、  
あんな素町人風情に踏付け  
られてゐるもんですか、一  
身を犠牲にしても闘つてや  
るわ』



ヒステリカルな叫びを  
あげる  
高野は慰め顔に  
『いや、まだ待出すと完つ  
た譯ではありませぬよ、奥  
さんそうならぬうちに先  
方から突込んで来られぬ  
やうに、先に攻撃の材料を

與へさせないやうにしつか  
り手配をしてかゝらなければ  
ば、或ひは戦争が敗けにな  
りやあしないかと、只それ  
を氣遣つて申上げるのです  
やうが御安心なさいませ  
奥さん私は及ばずながら貴  
女のたてになつて正面から  
防禦しませう』

彼は一層力を入れて  
『是れから必死の運動をし  
て貴女を護ります、どうぞ  
私に一切おまかせなすつて  
下さい、一体なら川島さん  
が全責任を負つてゐるんだ  
から、此際大いにやつて貴  
はなけりやならぬ所ですが  
薬者狂に無中になつて居所  
も分らないやうな始末ぢや  
あ、實際頼みになりませぬ  
からね、困つた人ですな、  
奥さん』  
郁子はとう／＼つり込ま  
れ

前やつてくれてね』  
郁子はその言葉を聞いて  
安心したらしく、語氣が次  
第に和らんで来た  
『え、やりますとも、粉  
骨碎身大に奥さんの爲にや  
ります』  
『是非、どうぞ』  
『なあに、ごんの爲なら

此命を犠牲にしても構いま  
せん』  
『あら、そんなに私を思つ  
てくれること感謝してよ』  
『奥さん偽りのない私の心  
を表示する爲に此處で盟は  
せて載させよう、どうぞお  
手をお貸し下さい』  
立揚つて郁子のしなやか  
な手をとつた、そしていき  
なり口許へ引寄せ、その  
嫩かい甲の上に燃ゆるやう  
な唇をあてた、郁子は莞爾  
と目で笑つて、男の爲すま  
ゝにまかせてゐた、高野の  
波打つ胸は高らかに凱歌を  
あげた……最う我物、誘ふ  
風なくとも此花は戦掌上に  
散つてくると

翌日十文字屋は俄に動搖  
しはじめた、引切りなくや  
つてくる自動車だの、傳だ  
のが店頭にひしと押列んで  
いろんな人の出入がはげし  
くなつて来た、家のなかで  
は三個からある電話がこや  
みもなく鳴りつゝいた、い  
やに陰鬱な空氣が室といふ  
室に流れて、廊下につたは  
る足音にさえない不安の耳を敬  
てさせてゐた  
主人半兵衛は此夕から危  
篤に陥つたのである

**無代進呈**  
誰れでも何時でも無資本で開業が出来て即日より現  
金収入ある。  
**通信販賣術講義録**  
要領収一冊無代進呈  
同書には無擔、無利子、對入信用にて月賦償却法に  
よる資金貸出の制度を提供す但し入學金共講義録月  
謝合計參圓を要す、ハガキにて此新聞名記入御申込  
次第右要領収一冊無代進呈す。  
東京市神田區今川小路二の二  
申込所 東京通信販賣研究會本部

●遠近 **自宅筆生募集**  
男女  
何人にも書ける副業としての筆生を募集す前金保證  
金又は材料費等絶對不要、郵券九錢封入御申込み次  
第即日より就業の材料内容一切送る。  
東京市神田區通神保町三星鳳社出版部

●無代進呈 佛教書籍佛畫佛像佛具目錄ハ  
ガキ御申込み次第無代進呈  
東京市神田  
【番地不用】 **日本佛教新聞社**

**吉田眼科病院**  
平紺屋町、電話六八八番

**お醤油は ヤマフル**  
醬油味 贈  
たひら 正宗  
鯉節 食料品  
山崎名會社  
電話 (業務部) 一〇番  
(工場) 二七番

**松村**  
淋病 皮膚病 婦人病 胃性病  
腸病 門專  
院醫科 腸病  
〇七一話電  
町南平

大塚の **學生靴!!!**  
耐久新製品  
編上靴 六〇〇  
半靴 五〇〇  
不安心なるキカイ靴  
り、安心得る弊店の靴  
大塚支店製靴部  
電話七七番